

令和5年度 北九州市高齢者支援と介護の質の向上推進会議
第3回地域包括支援に関する会議 会議録(全文)

1 開催日時

令和6年3月19日(火) 18:30~20:00

2 開催場所

北九州市役所 3F 大集会室(ハイブリッド開催)

3 出席者等

(1)構成員

安藤構成員、石田構成員、伊藤構成員、大丸構成員、椛島構成員、白木構成員、
杉本構成員、中村構成員、平川構成員、森野構成員、油布構成員、和田構成員

(2)事務局

地域福祉部長、認知症支援・介護予防センター所長、難病相談支援センター所長、
長寿社会対策課長、地域福祉推進課長、地域支援担当課長、介護サービス担当課長、

4 会議内容

1 報告

- | | |
|---------------------------------|-----|
| (1)チューリップ手帳(パーキンソン病 地域連携パス)について | 資料1 |
| (2)介護予防・生活支援サービス事業実施状況について | 資料2 |
| (3)北九州市しあわせ長寿プラン(最終案)について | 資料3 |

2 議事(非公開)

- | | |
|-----------------------------------|-----|
| (1)令和6年度介護予防支援・介護予防ケアマネジメント業務について | 資料4 |
| (2)地域包括支援センターの指定更新について | 資料5 |

5 会議経過及び発言内容

報告(1)チューリップ手帳(パーキンソン病 地域連携パス)について …資料1

事務局:報告(1)について資料1に沿って説明

代表:それでは、質問やご意見がありましたらお願いします。

構成員:今、患者さんが1,000人以上いらっしゃるということですが、差し支えなければ65歳以上の高

年齢が何割ぐらいを占めているか教えていただきたいです。

事務局: 今、年齢別のデータが手元にないため、はっきり言えませんが、ほぼ高齢の方が占めているというふうに、イメージしていただいて結構です。特に、後期高齢者がかなりの割合を占めております。それだけ高齢の方々に非常に多い疾患だということをご理解いただければと思います。

構成員: ほとんどの方が在宅で治療をされているのですか。

事務局: 私どものデータが特定医療費、医療費助成を受けている方のデータであるため、その中で在宅の方が何割というような正確なデータはありませんが、在宅生活をされている方はかなりいらっしゃる認識しております。

構成員: はい、ありがとうございました。

代表: その他いかがでしょうか。

副代表: このチュールリップ手帳を見させていただいて、僕ら医療機関にとっても、いろんな意見書を書くときに参考になる内容で、非常に助かります。確かに指定難病、神経難病の方で、パーキンソン病は頻度が多いので。ただ、あと脊髄小脳変性症や筋萎縮性側索硬化症など、他の難病もありますが、そういうのもこういうものがあればいいなと思いますが、まずはパーキンソン病という一番多いものから取り組まれたということで、非常にいいものができるなと思っております。

構成員: 先ほどご紹介いただいたこのチュールリップ手帳を早速、私は使用させていただきました。私は3名ほどのパーキンソン病の方をご自宅で看していますが、先ほどの説明にあったようにおひとりですというのは非常に厳しいので、私と一緒に記入をしましたが、かなりのエネルギーが必要かなと思いました。しかしながら、ご家族に病識はあっても、なかなか理解できないところがあるので、そこをフォローできる、再確認することはできたのでそこは非常によかったかなと思いました。今後、利用していきたいと思います。もう1つですが、このチュールリップ手帳を配布するとき、先月の29日にパーキンソン病の研修が行われましたよね。私は参加できなかったのですが、その時に自宅でできる運動プログラムというのが、その研修で行われたみたいですが、利用者さんもご家族も私も参加できなかったのも、例えば、その動画をアップするということができないのでしょうか、というご相談です。

事務局: 今、ご指摘があった運動プログラムというのは、私どもセンター主催でパーキンソン病について学ぶ講演会を開催しまして、その時のプログラムの1つとしてそういう運動プログラムも講師の方に紹介をいただいたという経緯があります。運動プログラムについては、その時にご紹介していますが、会員登録をしていただくと、動画を見ることができるようになります。もし、詳しいことをお知りになりたいということであれば、私ども難病相談支援センターに改めてお電話等でお問い合わせいただければご案内させていただきます。

構成員:ありがとうございます。

代表:今後のことを考えると電子化するとかですね。それと、やはり状態が変化していくということを前提にすると、バージョンアップしやすくしておくというその工夫が要るかなということと、もう1点、言うならば電子化したときに記入しやすくするためにタッチパネルにするとか、そういう工夫がさらにあれば、もっと広がるかなとも思いました。

その他にありませんか。特にないようでしたら、次の報告事項の(2)に進みます。

報告(2)介護予防・生活支援サービス事業実施状況について…資料2

事務局:報告(2)について資料2に沿って説明

代表:それでは、質問やご意見がありましたらお願いします。

構成員:前に聞いたかもしれないですが、栄養訪問コースにすごく興味がありますが、具体的なイメージがわからないので、どんなことをしているのかももう少し教えてください。

事務局:栄養訪問コースですが、対象は要支援1、2の方になりますが、その中でも低栄養状態やその可能性がある方、もしくは高血圧や高血糖などの生活習慣病があって、かつ、食生活に課題があるような方を対象にしています。管理栄養士がご自宅に訪問して、食とか栄養のアセスメントをした上で、アドバイスを、1人あたり最大5回の訪問というところで設定しております。

構成員:そのあとはなにもないということですか。

事務局:5回終了したらそのあとは、包括のプランをもとに介護予防担当員というケアマネジャーみたいな方がフォローをしていくという形になります。

構成員:またサービスを利用することもありますか。

事務局:そうですね、アセスメントの状態によってご本人さんの状態が変われば、栄養訪問コースを再び使うということもありえるかもしれませんし、先ほど申し上げましたようにどちらかという、連動コースや訪問コースを利用されていた方から栄養の課題があるということで、この栄養訪問コースに繋がってくる方が今は多いように見受けられます。

構成員:一般の方をすべて拾い上げていくというものではないということですか。

事務局:ではないですね、要支援1、2というところになってきます。

代表:その他いかがでしょうか。ないようでしたら、先に進めさせていただこうと思います。

報告(3)北九州市しあわせ長寿プラン(最終案)について…資料3

事務局: 報告(3)について資料3に沿って説明

代表: それでは、質問やご意見がありましたらお願いします。

構成員: 今、ご説明いただきましたが、4点ほど私どもに関わる表記のところで、修正等をお願いできればという箇所があります。まず、北九州市しあわせ長寿プラン(最終案)47頁の下段【達成目標】の表中に、「ボランティアコーディネート件数」「社会福祉ボランティア大学の受講者数」という欄があります。これの「現状(令和4年度)」のところは私どもの事業報告で上がっている数字ですが、その隣の「目標値(令和8年度)」の数字は、私どもと調整させていただければと思っています。この冊子の60頁の下段にも同じ数字がありますので、ここも同様にご検討いただければと思っています。それとその隣の61頁の下段に【主な具体的取組み】という欄がありますが、その中の“シルバーひまわり”は、市民の方が目にされるというところを考えますとできれば、正式名称で“シルバーひまわりサービス事業”と書いていただければありがたいと思います。それと91頁の【達成目標】の表中ですが、「終活相談対応件数」というのが上がっています。ここにあります「現状(令和4年度)」の116件ですが、これは私どもの事業報告では相談内容件数ということでこの数字を上げています。逆に、終活相談対応件数としましては、58件という数字を上げていますので相談対応でいくのであれば58件、相談内容でいくのであれば、116件という数字を上げていただければと思っています。

事務局: ご意見ありがとうございます。まず、ボランティアコーディネートの件数ですが、社会福祉協議会とは代表窓口を通して、一回、一応文言のチェックや目標数値のすり合わせをさせていただいております。詳細が今すぐに出ることはないですが、ボランティアコーディネートの件数は、もともと多分、社会福祉協議会が掲げてある数字はもう少し低い数字かなと思いますが、その時に協議した上で上方修正を我々がさせていただいたということで、調整をしていると認識しています。また中身については、もう1回じっくりとお話をさせていただきたいと思います。表に出ている数字なので、内容を詰めてお互いうまくやっていければと思っています。あと、シルバーひまわりサービス事業もご指摘を何点かいただいている、いただいたところは直していますが、漏れているところで、確かにこれは正式名称ではないので、一行に入る、入らないというのが我々にとって、反映できていないところもあるかもしれませんが、ここもどれぐらい今からの表記、印刷に間に合うかとかいうのも含めて、またお話をさせてください。なるべく正式な名称に直していければと思っています。

事務局: 終活相談対応件数が、対応件数であれば58件で、内容でいきますと116件というようなご教示をいただいたと思いますが、こちらにつきましては、基本的に内容について記載をさせていただいていますので、その指標の名称につきましては、また後日しっかり調整をさせていただきます。今、この冊子を作るのに、最後の校正をしているところで、調整、確認をさせていただきますので、また後日よろしくお願いいたします。

構成員: お手数おかけしますがご検討のほどよろしくお願いいたします。

代表:では、十分間に合うということですね。

構成員:資料3の修正案について、お伺いと提案をさせていただきます。すでに最終案としてまとめている29頁をお開きください。リハビリテーションに関することですが、今回大きなこととして、医療機関の専門職が地域に派遣されるということにちなんで、3つの大きな指針が出されて、前回は議論されたところですが、この最終案について、希望を少し申し上げてよろしいでしょうか。2つほどあります。まず1つ目ですが、「①リハビリテーションの整備と充実」というところで、地域リハビリテーションケース会議を表に出して、充実させていくという文章で、これについてはよろしいと思いますが、次の段の地域リハビリテーション協力機関の充実を図り、アンダーラインを引いている「地域の中で介護予防等に取り組む体制づくりを進めます」というこの部分ですが、せっかく医療機関との連携、地域派遣がこの新しい節目の年度に出ていますので、この地域の中での介護予防等のところは、コメントにもありましたように、リハビリテーションが今、急性期、回復期、生活期のリハビリテーションというふうに機能分化されていますので、非常にスムーズなリハビリテーションが進みにくいという課題があるという提言だったと思います。そういう意味でこの介護予防等のところを、“急性期、回復期、生活期のリハビリテーションとの連携に取り組む”という表現に変えていただければ、もうひとつ踏み込んだ内容になるのではないかとところが希望としてあります。それから続けて2つ目ですが、同じ頁ですが、「③リハビリテーションの啓発・地域づくり支援」ということで具体的に役立つ方法という文章になっているので、これもよろしいですが、希望としては、できたら括弧して“介護予防(身体機能訓練)、健康づくり(日常生活動作訓練)”、という具体的な項目を入れていただいた方が、リハビリテーションの技法についての助言・提案が各医療機関の専門職から具体的な事例に応じた方法を言ってもらえると思います。ぜひ“介護予防(身体機能訓練)、健康づくり(日常生活動作訓練)などの自立支援に役立つ方法を助言・提案します”と加えていただければ、かなり踏み込んだ内容に入っていけるのではないかと考えましたので、ご提案させていただきました。

事務局:今、構成員が言われたのは、目的をはっきり謳ったほうがいいということだと思います。その点につきましては、今、言われた趣旨を踏まえて、担当の地域リハビリテーション推進課と協議させていただきながら、どんな形で最終的に盛り込むことができるのか検討させていただきたいと思います。日常生活訓練や身体機能訓練、或いは、急性期、回復期と、リハビリもそれぞれの状態に合ったことが必要なんだ、というのは確かに言われるように、この計画の中で謳っていくのはいいのかなと個人的には思いましたので、担当課とも調整させていただきたいと思います。

2 議事(非公開)

- | | |
|-----------------------------------|-----|
| (1)令和6年度介護予防支援・介護予防ケアマネジメント業務について | 資料4 |
| (2)地域包括支援センターの指定更新について | 資料5 |

代表:本日の議事は以上になります。